



予防接種のしおり ～接種前にお読みください～

風しん（麻しん風しん混合ワクチン）

麻しん風しん混合ワクチンの受け方

体調の良い日に受けましょう！

★ 予防接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱をしている方（通常37.5℃以上の場合）
- ② 重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ 麻しん風しん混合ワクチンの接種液に含まれる成分で、アナフィラキシー（通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のこと）を起こしたことがあることが明らかな方
- ④ 免疫機能に異常がある方・免疫抑制をおこなう治療を受けている方
- ⑤ 妊娠している方および妊娠している可能性のある方
- ⑥ その他、医師が不適当な状態と判断された方

★ 予防接種を受けた後の注意

- ① 予防接種を受けたあと30分程度は、病院にいるなどして様子を観察し、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがあります。
- ② 接種後、4週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ④ 当日は激しい運動は避けましょう。
- ⑤ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

★ 麻しん風しん混合ワクチンの副反応

副反応の主なものは、接種後5～14日に発現のピークがある発熱と発しんです。接種直後から数日中に過敏症状と考えられる発熱、発しん、かゆみなどが起こることがありますが、通常1～3日で治ります。アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎及びけいれんなどの副反応がまれに生じる可能性があります。

★ 予防接種健康被害救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく健康被害救済の給付を受けることができます。ただし、国の審査会にて審議し、その健康被害が予防接種によるものと認定されることが必要です。

風しんとは

風しんウイルスの飛沫感染によって起こり、軽い風邪症状で始まり、発しん、発熱、後頸部リンパ節の腫れなどがみられます。発しんも熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれます。大人になってかかると高熱や発しんが長く続いたり、関節痛が生じたりするなど、症状が重くなる場合があります。また、妊婦が妊娠早期にかかると、心臓病、白内障、聴力障がいなどの病気を持った子どもが生まれる（先天性風しん症候群）可能性が高くなります。

麻しん（はしか）とは

麻しんウイルスの空気感染・飛沫感染・接触感染によって起こります。感染力が強く、発熱、せき、鼻汁、めやに、発しんを主症状とします。ウイルスに感染後、無症状の時期（潜伏期間）が約10～12日続き、その後、症状が出始め、最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時熱が下がりがけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発しんが出ます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発しんも消失しますが、しばらく色素沈着が残ります。主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。麻しんにかかると数年から10数年経過した後に亜急性硬化性全脳炎という重い脳炎を発症することがあります。（約10万例に1～2例発生）麻しんにかかった人のうち数千人に1人の割合で死亡することがあります。